

送辞



暖かい春の訪れがますます感じられるようになった今日、東輝中学校から旅立られる三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

在校生一同、心よりお祝い申し上げます。卒業生の皆さんは今、この東輝中学校で過ごした三年間の思い出が蘇ってきているのではないのでしょうか。

先輩方はこの三年間、勉強や部活動、そして東輝祭などの行事で、どんなことにもくじけず常に前を向き、全力で取り組まれました。

先輩方への思いを振り返ってみると私たちの背中をいつも優しく押してくださる温かい姿が思い出されます。

私たちの心は、先輩方への感謝の気持ちでいっぱいです。「輝笑転結、越えろ今」の言葉をこころスローガンを掲げられました。「自分の限界を破る」という思いが込められ様々な活動に取り組まれました。

特に銀杏の取組では、銀杏の実が採れない中、全校生徒でできる新たな取組を考えられ、みんなで一つのものを完成させることができました。

どんな状況でも、伝統を引き継いでいくこと、先輩方の思いに心を打たれました。そういった先輩方の姿や思いを受け継ぎつつ新しいことにも前向きに挑戦し活動の輪を広げていきます。

今年は体育祭・文化祭に代わる、東輝祭がおこなわれました。例年とは違う形での取組でしたが、変わらず全力で取り組まれました。

部活動では、私たちを引っ張って大会やコンクールで素晴らしい成績を残してくださいました。どの部活動でも、優しく丁寧に指導してくださいました。

今年度は部活動の活動に制限がありました。一つ一つの練習や大会、コンサートが三年生の最大の思い出になりました。

今まで、私たちは先輩方の後ろをついて行くだけで精一杯でした。しかし、明日からは自分たちが一番前を歩くときになりました。皆さんから教えてもらったこと、学んだことをしっかりと胸に刻み、前に進んでいきます。

これからは私たちが東輝中学校の中心となり、皆さんがこの東輝中学校のことを胸を張って母校と言えるような素晴らしい学校にしていきたいと思います。

この東輝中学校で培われた力を生かして、新たな進路先でもさらに飛躍されることを心より願っています。

先輩方への感謝の気持ちと、これからの活躍をお祈りし、お別れの言葉といたします。

令和三年三月十二日
在校生代表 小倉和真



答辞



教室から臨む木々の若葉の芽吹きや道の片隅に咲く花々が目にとまり、春の訪れを感じられるようになりました。歩き慣れたはずの通学路が今日はなぜか寂しく感じられ、中学校での思い出が次々と浮かんでいきます。

現在も世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、私たちの生活は一変しました。その変化は日常生活だけではなく、学校生活にも大きな変化をもたらしました。

文化祭では、一つ一つの言葉に心がこもっている歌でした。それぞれのパートの音色やハーモニーが心に強く響きました。

みなさん、私たちは今日で五八日目の登校となります。この東輝中学校での三年間、私たちは、多くの経験をし、充実した日々を過ごしてきました。

一・二年生の体育祭は全クラスが朝練習をして団結し、文化祭では伝えたいことを伝え、自分たちが一番だったと自信を持っていえる発表になりました。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

「この青学年は雨学年、三年間そう言われてきました。延期されたり、短縮されたり、そんな行事がほとんどでした。

新型コロナウイルス感染症の影響で学校に行けなかった時は、「早く学校へ行きたい」「早く学校でみんなと一緒に勉強したい」と、思う気持ちの方が強くなったのです。

これは当たり前のように学校に行っていたら絶対に感じることはできなかった感情です。ようやく学校に行けるようになり、いつも通りの毎日を過ごせると思っていた私達を待ち受けていたのは、とても悲しい現実でした。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

特に二年生の皆さん、来年度の状況はまだまだわかりませんが、東輝中学校の生徒としての誇りを持ち、先輩としての姿を後輩に見せてあげてください。そして、部活動でも、行事でも、普段の生活でも全力で頑張れる東輝中学校を創って下さい。

いつも私達と共に歩んで下さった先生。一年生の頃から「時間をきっちり守りなさい」と何回も何回も注意をされ、「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

動てなかなか上手に壁にぶつかった時、受験で不安に押しつぶされそうになったとき、いつも私の隣には支えてくれる仲間がいました。そんな仲間がいたから学校が楽しい場所になりました。明日が来るのが待ち遠しくなりました。「ありがとう」

ここからは、それぞれの道を歩んでいきます。自分の進む道にどんな困難が待ち受けているかわかりません。でも、大丈夫。不可能を可能にする力が私達にはあります。壁にぶつかるたびに廊下に咲いた青い薔薇を思い出して、もう一歩踏み出せる、そんな気がします。きっと私達の未来には雲ひとつない青空が広がっているでしょう。最後になりましたが、こうして門出の時を迎えることができるのは、本気で関わってくれた先生方、大きく見守ってくれた両親、そして私たちに温かな心を注いでくださった多くの方々のおかげです。今は心から感じるものがたくさんあります。もうすぐ別れの春は、始まりの春へと表情を変えていくことでしょう。私たちが東輝中学校を卒業したという誇りを持ち、それらの道に向かってくれ、そして力強く歩んでいくことを誓い、答辞とさせていただきます。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

「もうわかっているって」とうとうとしそうにする私達。それでも見放さずその大切さを教へてくれた先生。そのお陰で私達の意識が変わり、意識が変われば行動が変わり、気づけば二分前の着席が当たり前になるようになっていました。

令和三年 三月十二日

- 答辞作成委員 城地あさひ 上原 一真 住 芳樹 石野 優空
- 卒業生代表 森下 大毅 早川 実希

亀岡市スポーツ賞

特別栄誉賞(個人) 小東真皓 (水泳)

優秀賞(個人) 西山修平 (陸上競技部)

優秀賞(団体) 男子駅伝チーム(陸上競技部)

奨励賞(団体) 女子バレーボール部

奨励賞(個人) 女子バスケットボール部

岡田 歩 (サッカー)

甲斐日翔 (陸上競技部)

伊藤沙羅 (陸上競技部)

遠藤鈴奏 (陸上競技部)

永田遥士 (空手)

井上璃子 (水泳)

永澤煌希 (水泳)

